

日本気象協会 2023年 春の花粉飛散予測(第3報) ～まもなくスギ花粉シーズンへ！ 2月に入ると九州から関東で飛散開始に～

◆2023年 春の花粉飛散予測のポイント

- ・飛散開始は例年並み。九州から関東で2月上旬からスタート
- ・スギ花粉のピークは例年並みで、3月上旬からピーク入りする地点が多い
- ・飛散量は九州～東北で前シーズンより多く、特に四国・近畿・東海・関東甲信で非常に多い予想

一般財団法人 日本気象協会(本社:東京都豊島区、理事長:長田 太、以下「日本気象協会」)は、2023年1月19日(木)に全国・都道府県別の2023年春の花粉(スギ・ヒノキ、北海道はシラカバ)飛散予測(第3報)を発表します。また、詳細な情報を「2023年春の花粉総飛散量 予測資料」として販売します。

1. スギ花粉の飛散開始時期

スギ花粉の飛散開始※は、九州から東北にかけて例年並みとなるでしょう。2月上旬から九州や四国、中国、関東の一部で花粉シーズンがスタートする見込みです。

2022年12月下旬から年明けにかけて、西日本や東日本は寒気の影響を受け、平年より気温が低くなりました。1月中旬は全国的に暖かさが際立ちましたが、1月下旬は全国的に強い寒気に覆われるでしょう。2月上旬も気温は西・東・北日本とも平年並みか低く、その後も2月下旬にかけて、西日本と東日本では平年並みかやや低く、北日本では平年並みの見込みです。寒暖を繰り返しているものの、飛散開始時期が早まったり、遅れるほどの影響はないでしょう。

まだ飛散開始には至っていませんが、気温が上がると、花粉は飛散する可能性が十分にあるため、今後も寒暖差に注意しながら、花粉症の方は対策を万全にしましょう。



※飛散開始日：1平方センチメートルあたり1個以上のスギ花粉を2日連続して観測した場合の最初の日



2. 各地のピーク予測

スギ花粉飛散のピークは、福岡で2月下旬から3月上旬、高松や広島、大阪、名古屋では3月上旬から中旬の予想です。金沢、東京、仙台では3月上旬から下旬となるでしょう。今年は大量飛散が見込まれるところが多いため、ピークの時期も長くなる可能性があります。

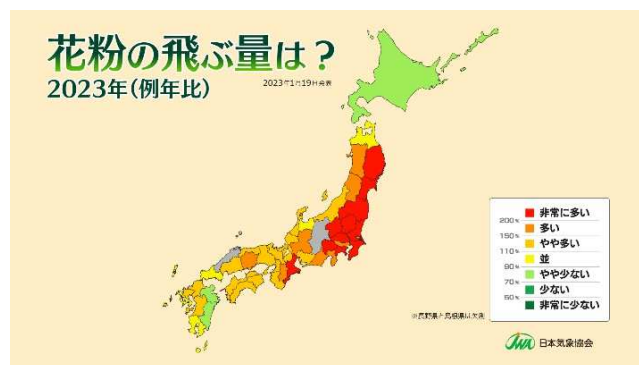
スギ花粉のピークが終わる頃になると、ヒノキ花粉が飛び始め、その後ヒノキ花粉のピークが始まります。福岡や広島では3月下旬から4月上旬、高松では3月下旬から4月中旬の見込みです。大阪と名古屋では、4月上旬から中旬、東京では4月上旬から下旬にかけてヒノキ花粉の飛散のピークを迎えるでしょう。金沢と仙台は、4月を中心にヒノキ花粉が飛散しますが、飛散量は他の地点と比べると少ないため、はっきりとしたピークはない見込みです。



3. 2023年シーズンの花粉飛散傾向

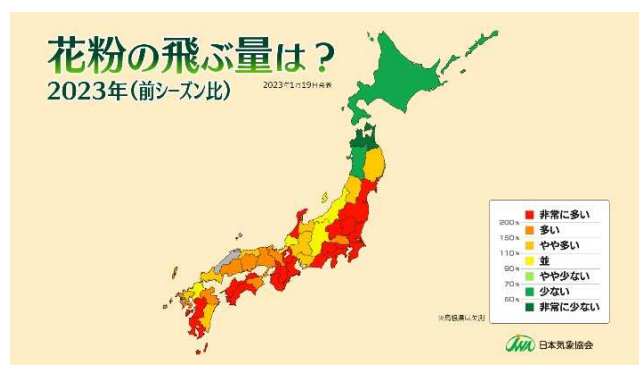
【例年比】

2023年春の花粉飛散予測は、九州では例年並み、四国と中国、近畿、北陸ではやや多くなるでしょう。東海と東北では多く、関東甲信では非常に多く飛ぶ見込みです。北海道は例年よりやや少ないでしょう。



【前シーズン比】

九州から東北にかけて前シーズンより飛散量は多く、特に四国、近畿、東海、関東甲信では非常に多く飛ぶ見込みです。前シーズンは症状が弱かった方も万全な花粉症対策が必要になりそうです。





2023年	各地域の花 粉飛散傾向	地方	例年比		前シーズン比		2022年夏の気象(6~8月)		
			気温	降水量	日照時間				
		北海道	やや少ない	70%	少ない	50%	高い	かなり多い	少ない
		東北	多い	180%	やや多い	110%	高い	かなり多い	少ない
		関東甲信	非常に多い	200%	非常に多い	210%	かなり高い	平年並	平年並
		北陸	やや多い	110%	やや多い	110%	かなり高い	多い	平年並
		東海	多い	180%	非常に多い	280%	高い	多い	平年並
		近畿	やや多い	140%	非常に多い	260%	かなり高い	少ない	平年並
		中国	やや多い	130%	やや多い	140%	かなり高い	平年並	平年並
		四国	やや多い	110%	非常に多い	290%	かなり高い	少ない	平年並
		九州	例年並	100%	やや多い	140%	かなり高い	少ない	多い

2023年1月19日 発表

4. 飛散量の予測根拠

花粉の飛散量は前年夏の気象条件が大きく影響します。気温が高く、日照時間が多く、雨の少ない夏は花芽が多く形成され、翌春の飛散量が多くなるといわれています。

2022年の夏(6月~8月)は梅雨前線の活動が弱く、特に6月の降水量は西日本の太平洋側でかなり少なく、日照時間は東日本の日本海側と西日本の太平洋側でかなり多くなりました。また、6月後半から7月上旬にかけて太平洋高気圧が強まり、東・西日本を中心に晴れてかなりの高温となりました。そのため、6月に「**高温・多照・少雨**」となり、スギの花芽形成に好条件となりました。さらに、2021年~2022年に花粉飛散量が少なかった地域が多く、スギの木に花芽を形成させるエネルギーが蓄えられていたため、より一層、スギの花芽形成が促進されたと考えられます。

【天気傾向】

6月	本州付近は梅雨前線の影響を受けにくかったため、西日本の太平洋側で月降水量はかなり少なく、東日本の日本海側と西日本の太平洋側で月間日照時間はかなり多くなりました。後半は太平洋高気圧が強まり、西日本から東北部では晴れて高温となり、月平均気温は東・西日本でかなり高くなりました。一方、北海道では気圧の谷や湿った空気の影響を受けて、月降水量はかなり多くなりました。
7月	気温は、全国的に高くなりました。前線や台風などの影響で太平洋側を中心に大雨になった地域があり、降水量は、太平洋側で多く、日本海側は平年並みか少なくなりました。日照時間は、全国的に平年並みでしたが、北・東日本の日本海側は多くなりました。
8月	気温は、北・東日本は平年並み、西日本は平年より高くなりました。前線や台風などの影響で北・東日本は記録的な大雨となった地域があり、降水量は北・東日本で多く、西日本は平年並みでした。日照時間は、北・東日本で少なく、西日本は平年並みでした。

5. スギ花粉のライフサイクル

スギ花粉は1年間を通じて、生長・形成・開花を経て、花粉を飛散します。飛散した花粉からまた生長が始まります。



【花粉の種類について】

北海道はシラカバ、その他はスギ・ヒノキ花粉の飛散量を表します。

【飛散量に関する言葉の説明】

非常に多い	: 前シーズン／例年の 200%以上
多い	: 前シーズン／例年の 150%以上 200%未満
やや多い	: 前シーズン／例年の 110%以上 150%未満
前シーズン(例年)並	: 前シーズン／例年の 90%以上 110%未満
やや少ない	: 前シーズン／例年の 70%以上 90%未満
少ない	: 前シーズン／例年の 50%以上 70%未満
非常に少ない	: 前シーズン／例年の 50%未満

前シーズン	: 2022 年シーズン飛散量
例年	: 過去 10 年(2013～2022 年)の平均値

【2022 年夏の気象に関する言葉の説明】

平年	: 1991～2020 年の平均値
----	-------------------

◆ 日本気象協会の花粉飛散予測とは

日本気象協会は 1990 年からスギ花粉の飛散予測を発表しています。日本気象協会の花粉飛散予測は前シーズンの花粉飛散結果や今後の気温予測などの気象データをもとに、全国各地の花粉研究会や協力機関からの情報、花芽の現地調査の結果などをふまえて予測しています。

・本情報の無断での法人利用(プレスリリースでの引用や販促目的使用など)はご遠慮いただいております。

商品 PR など法人利用をご検討の際はお問合せフォームからご連絡をお願いします。[\(https://www.jwa.or.jp/contact/\)](https://www.jwa.or.jp/contact/)